

第5章 環境指標

北茨城市の環境将来像である「～小さな手 大きな手 つないで守る 北茨城の豊かな自然～」を実現するためには、市内に居住する人、市内で働く人、市内を訪れる人が、北茨城市の環境のみならず、地球環境のことを考えて行動していくことが必要です。

環境指標とは、環境の状態や変化を数値で示し、環境の評価や政策の効果測定に用いられる指標のことです。これにより、環境問題の把握や対策の検討が可能となります。

5.1 自然環境保全

自然を楽しむまちづくり

森林整備、清掃・除草などを強化し、自然の機能回復と良好な自然景観の維持を図ります。また、自然環境に関し、情報の一元化と啓発を強化することで、自然にふれあう機会の拡充を推進します。

環境指標		第1期計画当初 (H25年度)	現状 (R5年度)	計画目標 (R16年度)
山林や平地林等の整備面積	山林	378.9ha	860.7ha	1410.7ha
	平地林等	0.8ha	7.8ha	9.0ha(R11年度)
現状：山林については、県や北茨城市森林組合など関係機関と連携し、間伐を実施している。平地林や里山林については、緑空間として利用されていない。海岸沿いなどの松林については、松くい虫被害予防散布を毎年約50ha実施している。 目標：山林は間伐や下刈り、平地林等は保全や資源の活用などの整備に取り組む。(平地林等の整備面積は、第5次北茨城市総合計画後期基本計画において、令和11年度に9.0haを目標値としている)				
「北茨城市環境美化運動の日」等の市内清掃参加者数		3,000人	3,108人	3,500人(R11年度)
現状：第1期計画で目標とした5,000人(令和6年度)を下回っている。 目標：意識向上のための啓発や広報に取り組むとともに、美化活動が広がるよう支援の充実を図る。(第5次北茨城市総合計画後期基本計画において、令和11年度に3,500人を目標値としている)				

5.2 生活環境保全

安心・安全なまちづくり

私たちが安心・安全に生活をしていくために、きれいなまちづくりや不法投棄されない環境を目指し、大気汚染や水質汚濁などのさまざまな問題からの安全性の確保や景観保全を推進します。

環境指標	第1期計画当初 (H25年度)	現状 (R5年度)	計画目標 (R16年度)
生活排水処理普及率	58.9%	68.5%	84.6% (R14年度)
現状：計画当初より9.6%増加している。 目標：茨城県の「生活排水ベストプラン」に掲げる目標値（令和14年度に84.6%）とし、より一層の排出量の削減を目指す。			
河川水質環境基準達成率 (5河川7地点のBOD)	100%	42.9%	100%
現状：第1期計画で目標とした達成率100%を下回っている。 目標：環境基準値が達成されるよう、水質調査や汚濁防止対策を継続する。			
有機フッ素化合物（PFAS）の暫定指針値 の達成状況	-	100%	100%
現状：令和4年から県で、また令和6年度より市で補完調査を実施しているが、令和6年度までの調査では暫定指針値を下回っている。 目標：継続した調査を行い、暫定指針値の達成状況を監視する。			
暮らしの中で節電を心がけている市民の割合※	64.6%	66.5%	82.0%
※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。 現状：節電（省エネ）を心がける市民の割合は過半数を超えるが高いとまでは言えない。 目標：「時々行っている」「行っていないが、今後は行いたい」「行っていないし、今後も行わない」と回答した割合（30.9%）の1/2が現状値に移行することを目指す。			
暮らしの中で節水を心がけている市民の割合	47.0%	37.3%	67.2%
※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。 現状：第1期計画当初より関心が低くなっている。 目標：「時々行っている」「行っていないが、今後は行いたい」「行っていないし、今後も行わない」と回答した割合（59.7%）の1/2が現状値に移行することを目指す。			
まちの清潔さに対する満足度	36.5%	43.2%	70.8%
※市民アンケートによる満足度（現在の環境で「満足」＋「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：第1期計画当初より関心がやや高くなっている。 目標：「どちらともいえない」「やや不満」「不満」と回答した割合（55.1%）の1/2が現状値に移行することを目指す。			

5.3 循環型社会形成・地球環境保全

ゼロカーボンに向けたまちづくり

ごみの発生抑制と有効利用による排出抑制を推進し、循環型社会づくりを図ります。
また、気候変動対策は、緩和策及び適応策を推進し、地域の活性化に資する再生可能エネルギー活用による CO₂ の削減と吸収源対策により、ゼロカーボンシティ構築を目指します。

環境指標	第1期計画当初 (H25年度)	現状 (R5年度)	計画目標 (R16年度)
一人1日当たりのごみの排出量 (一般廃棄物)	1,022g	929g	917g (R11年度)
※一人1日当たりのごみの排出量 (g) = {総ごみ排出量 (g) / 北茨城市ごみ処理区域内人口 (人)} / 365 (日) 現状：令和5年度の実績値は、第1期計画の目標値 962g (令和2年度) を下回り、目標を達成している。 目標：ごみの発生抑制や減量化を推進し、より一層の排出量の削減を目指す。(第5次北茨城市総合計画後期基本計画に掲げる目標値：令和11年度に 917g)			
リサイクル率 (一般廃棄物)	13.0%	10.5%	16.2% (R11年度)
リサイクル率 (%) = 資源物量 (t) / ごみ総搬出量 (t) × 100 現状：令和5年度の実績値は、第1期計画の目標値 14.5% (令和6年度) を下回り、目標を達成していない。(量販店などでの回収ボックスでのリサイクルなど市が把握できないものもあると考えられる) 目標：分別の徹底や資源回収を推進し、リサイクル率の向上を目指す。(第5次北茨城市総合計画後期基本計画に掲げる目標値：令和11年度に 16.2%)			
気候変動や再生可能エネルギーに関する意見交換の開設数	—	—	2回
現状：地球温暖化や気候変動対策、カーボンニュートラルや再生可能エネルギーを推進するための意見交換の場を設けることを検討。 目標：洪水や高波、土砂崩れなどの災害に強いまちづくりに関する対策や、自然と調和した再生可能エネルギーの普及を目指す。(市民夏まつりや科学の祭典などのイベントブースでの普及啓発活動含む)			
公共施設における再生可能エネルギー導入件数 (累計)	3件	5件	22件
現状：太陽光発電システムを学校等5施設に設置しているが、目標とした7件 (R6年度の目標値) には達していない。 目標：国の補助制度などを活用し、22件の導入を進める。			

環境指標	第1期計画当初 (H25年度)	現状 (R5年度)	計画目標 (R16年度)
住宅用環境配慮型設備導入件数 (累計)	20件	444件	1,000件
現状：平成25年度から住宅用太陽光発電システム設置費補助事業を開始している。目標とした550件(R6年度の目標値)には達していない。 目標：年間60件程度の設置費補助に努め、導入件数の増加を目指す。			
温室効果ガス排出量(市全体)	785 千t-CO ₂	672 千t-CO ₂ (R3年度)	384 千t-CO ₂ (R12年度)
現状：本市における温室効果ガスは減少傾向にあるが、国の温暖化対策計画などの目標値を踏まえた、本市の目標設定が必要。 目標：北茨城市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の目標値に合わせ、令和12(2030)年度までに51%削減(平成25(2013)年度比)を目指す。			
温室効果ガス排出量 (市の事務事業)	14,945.9 t-CO ₂	7,797 t-CO ₂	4,500 t-CO ₂ (R12年度)
現状：令和6年度の実績値は、第1期計画の目標値13,109t-CO₂(令和6年度の目標値)を下回っている。 目標：北茨城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の見直しを行い、令和12(2030)年度までに平成25(2013)年度比70%削減を目指す。			
地元の農産物や海産物を積極的に購入している市民の割合*	-	30.9%	63.8%
※市民アンケートによる取組状況(「いつも行っている」と回答した割合)を対象。 現状：3割程度にとどまり、市民の半数に満たない。 目標：「時々行っている」「行っていないが、今後は行いたい」「行っていないし、今後も行わない」と回答した割合(65.7%)の1/2が現状値に移行することを目指す。			
エコドライブ(省エネ運転)をしている市民の割合*	41.9%	52.5%	73.5%
※市民アンケートによる取組状況(「いつも行っている」と回答した割合)を対象。 現状：第1期計画当初より関心が高くなっているものの、半数程度にとどまっている。 目標：「時々行っている」「行っていないが、今後は行いたい」「行っていないし、今後も行わない」と回答した割合(42.0%)の1/2が現状値に移行することを目指す。			
アイドリングストップやゆとりをもった加速・減速など車両使用時の環境負荷低減を行っている事業者の割合	28.1%	63.6%	76.7%
※事業者アンケートによる取組状況(現在実施していると回答した割合)を対象。 現状：第1期計画当初よりかなり関心が高くなっている。 目標：「今後はしてみたい」「今後もしるつもりはない」と回答した割合(26.2%)の1/2が現状値に移行することを目指す。			

5.4 環境活動実践

みんなが主役の環境活動

地域、学校、企業、各種団体などで行われている環境保全に向けた小さな取組から大きな取組まで、誰もが「伝える立場」と「知る立場」で参加して、環境問題を自分ごととしてとらえられるような環境イベントを開催し、環境活動の促進を図ります。

環境指標	第1期計画当初 (H25年度)	現状 (R5年度)	計画目標 (R16年度)
環境イベントや自然体験イベントへの参加者数	68人	865人	2,000人
※第1期計画当初（H25年度）の数は「ふるさと自然塾」への参加者数のみを計上している。 現状：市民夏まつりなどで、市民や事業者の環境意識の向上と環境活動を促進している。第1期計画で目標とした2,000人には達していない。 目標：市が主催するイベントで環境ブースを開設するなど、さらなる来場者数の増加を目指す。			
環境保全に対する市民の意識の高さに対する満足度*	18.1%	20.8%	59.6%
※市民アンケートによる満足度（「満足」＋「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：第一期計画当初より、「市民の環境保全への意識の高さの満足度」はやや伸びている。 目標：「どちらともいえない」「やや不満」「不満」と回答した割合（77.6%）の1/2が現状値に移行することを目指す。			
環境について家族や友達と話し合っている割合*	13.9%	22.0%	59.8%
※中学生アンケートによる取組状況（「している」と回答した割合）を対象。 現状：第1期計画当初より上昇しているものの、高い値とは言えない。 目標：「していない」「今はしていないがこれからはしたい」と回答した割合（75.5%）の1/2が現状値に移行することを目指す。			
地域の環境保全活動への支援・参加をしている事業者の割合*	42.1%	32.7%	60.3%
※事業者アンケートによる取組状況（「現在実施している」と回答した割合）を対象。 現状：第1期計画当初より低い値となっている。 目標：「今後はしてみたい」「今後もするつもりはない」と回答した割合（55.1%）の1/2が現状値に移行することを目指す。			